

大気追跡風

1. 提供データの内容

ひまわり 8 号の衛星画像から雲の動きを解析して得られる風ベクトルのデータ。主に数値予報に利用されている。赤外（バンド 13）、可視（バンド 3）、水蒸気（バンド 8, 9, 10）画像からそれぞれ算出された 5 種類のデータを提供する。

2. データフォーマット

CSV（comma-separated values）形式

（一行目に要素名、二行目以降に各データの要素（5．参照）値が格納されている。）

3. 算出領域

衛星天頂角 65 度未満、かつ気圧高度 100hPa から 1000hPa の範囲

（日本付近でおよそ 50km 間隔）

4. 算出頻度

1 時間ごと

5. 要素一覧

該当する風データの経度、緯度、気圧高度、時刻（MJD：修正ユリウス日）、品質管理指標（予報値テストあり QI）、品質管理指標（予報値テストなし QI）、風ベクトルの東西成分（m/s）、風ベクトルの南北成分（m/s）、衛星天頂角

補足：大気追跡風は衛星の姿勢変動の影響を大きく受けるプロダクトであり、利用目的に応じて利用するかどうかを判断いただくため、EUMETSAT 規格の予報値テストあり QI と予報値テストなし QI の 2 種類の品質管理指標を設定している。QI は 0 から 1 の間の値を取り、値が大きいほど高品質な風データである。予報値テストあり QI では、気象庁全球モデルの予報値との整合性も考慮して値を決定している。独自の数値予報モデルを保有している利用者や、気象庁全球モデルの予報精度に影響されていないデータを利用したいものは、予報値テストなし QI を利用の方が良い。実際の利用にあたっては、衛星の姿勢変動により生じる低品質の風データを除去するために最低でも品質管理指標（予報値テストなし QI）が 0.6 以上のデータのみを利用することを推奨する。この値を下回ると、ベクトルを求める処理が失敗している可能性が急激に高くなるためである。

6. ファイル名

Himawari8_AMV_g_\${YY}_\${MM}\${DD}_\${HH}\${MI}\${SEC}_B\${BAND}.csv.gz

YY、MM、DD、HH、MI、SEC は、それぞれ年月日時分秒（UTC）を表す。
BAND は AMV 算出に用いたバンドの番号を表す。

7. データ量

一観測（1 時間）あたり 10MB 程度